

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。

つ の ぶ え

TSUNOBUE

2019年 10月 20日

第 424 号



社会福祉法人
小羊学園

住 所 〒433-8105
静岡県浜松市北区三方原町2709-12

電 話 053-584-3337 FAX 053-585-8488

E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人 稲 松 義 人

印刷所 アド・アール株式会社



法人最高齢Mさん 7月に80歳になられ傘寿のお祝いをしました

先週、広島市で開催されたキリスト教社会事業同盟が主催する高齢者福祉研修会に出席した。このところ私はこの同盟の代表をしているが、小羊学園が児童福祉、障がい者福祉分野の事業を中心に行っているの、これまであまり出席してこなかった。今年は準備から関わることで、研修会の主題を、開催地が広島であることも考慮して、「シャローム あなたがたに平和があるように」とした。「シャローム」はヘブライ語の挨拶で、もともと「平和」という意味だそうである。

研修会では「尊厳ある介護」と題した認知症介護のあり方についての講演を聞いた。「認知症」の方への支援もご本人の意思を捉えることの難しさを感じるということでは、小羊学園が支援の対象とする方たちと重なるところが多い。その関わりの中で、支援される人も支援する人も、互いに「尊厳」ある存在として向き合えるとき、そこに本当の「平和」へのヒントがあるのではないかと思っている。 稲松義人

高齢障害者の暮らしの在り方と今後について 障害者支援施設の現状

【はじめに】

日本の知的障がい者施策は1960年の精神薄弱者福祉法（1999年／知的障害者福祉法に改正）を機に、60年代から70年代に多くの施設が設立されてきました。この時代は保護・養護の名のもとに、施設入所が推し進められた時代でした。2002年の「新障害者基本計画」で入所施設から地域生活への移行が推進され、中・軽度の方を中心に入所施設からグループホームへ生活拠点が移る方も増えました。

障がい程度が重度な方は長期間入所施設で生活するケースが多く、必然的に高齢になってきている現状があります。不確定データですが、入所者の全国平均は63歳という報告もあります。併せて、脳気質障がいである知的障がい者の多くは、健常者より早い段階で衰えが見られ（早期退行）、身体機能低下が顕著に表れ、介護度合いが高まる傾向にあります。

このような背景を前提に、三方原スクエア・支援センターわかぎの現状報告をしていきます。

【支援センターわかぎ】

支援センターわかぎ（以下わかぎ）は5年前の平成26年に施設の全面改築をしました。改築時のコンセプトの一つとして「重度・高齢化に伴う支援体制と建物構造」を掲げ、高齢化対応を意識した設計や設備を用意しました。具体的には、バリアフリー設計や機械浴槽、エレベーター、身障者用トイレなどになります。わかぎの利用者は21歳から76歳で平均年齢56歳です。わかぎ開設当時に成年だった方が年を重ねて50代後半から60歳前半に集中しているのが特徴です。法人内のイメージでは比較的自立度の高い施設として捉えられていましたが、近年は利用者の身体機能低下に伴う支援度の高い施設に変わってきています。

身体機能低下で顕著にみられるのが、体幹や下肢機能低下による歩行障害、嚥下機能低下による誤嚥性肺炎、腎臓や膀胱機能低下による排泄障害などがあります。また、見当識やせん妄など認知症と思われる言動によって生活レベルが落ちている利用者もおられます。改築時にある程度の設備を整えまし

たが、急激に機能の衰えが見られたことで設備に不十分さが生じてきたため、介護ベッド・トイレ座面の背もたれ、シャワーチェア・滑り止めマット・リクライニング車いす・シルバーカーなどを整備しました。

生活プログラムや活動プログラムも状況に応じて随時変更し、以前のような活発なプログラムからゆったりとした内容・時間配分に切り替えてきました。また、介護・マッサージ・おむつ装着などの外部講師を招いて、知的障害者支援では学び得なかった領域のスキル向上にも研鑽してきました。

ただし利用者の機能低下は待つてくれません。この2年でも、急性疾患やがんで逝去された方が2名、急性疾患等での入院は10ケースを超えています。退院時に日常的な医療ケアが必要になり、やむなく療養介護施設・療養型病院への移行が3名おり、生活支援である障害者支援施設の限界も感じています。そうした状況において、高齢者施設との連携は喫緊の課題となっています。



【三方原スクエア】

三方原スクエア（以下スクエア）に移転改築して11年が経過します。移転当時は利用者の皆さんも比較のお元気で、スクエアの建物もバリアフリーの配慮はしつつも、一般家庭に近いユニット構造として建てられました。現在のスクエア利用者の平均年齢は約45歳であり、他の障害者支援施設に比べるとまだ若い方が多い状況ですが、この10年程で様々な機能低下が表出する利用者が増えてきました。具体的には歩行が困難となり車椅子利用となる方、嚥下機能が低下し食形態が変更となる方、元々の知的障がいに加え認知機能が低下する方、内臓機能が低下し入院対応となる方、などです。高齢者とは言えない状況の中で、こうした傾向が見られるのは、重度の知的障がいによる様々な負荷が蓄積されてきたことや、てんかん発作等の身体に対する影響も大きかった事など、様々な要因が考えられます。

このような状況に対して、施設としても様々な工夫や対応を図り、機能低下利用者が入居するユニットのリビング改修と職員体制の構築、日中活動となる生活介護事業の2分化による重度タイプ利用者のプログラムや支援の見直し、特殊浴槽導入などを実施してきました。しかし、現状の施設体制の中では利用者の変化に対応しきれない部



分も現実的には残っており、スクエアでの対応が難しい方についてはご家族とも話をしながら他施設への移行も行ってきました。ただ、移行については他の施設も空きがある訳ではなく、多くの協議と調整が必要となります。そのような状況の中でまず手掛けたのは、同法人内のわかぎとの協力で、5年前に実施したわかぎの改築は介護設備や支援体制も考えられており、何よりも同法人内での協力がベースにあつた中で実現したものです。他法人では旧法の施設種別で身体障害の支援を主に行っていた施設への移行、また日常的な医療行為が必要な方については療養型病院や療養介護施設へ移られた方もいます。

いずれにしても、介護度合いが増す状況で、利用者が一番安心して生活できることを誰もが望みながら、社会資源の不足を感じざるを得ません。そのために身近な地域の中でお互いに繋がり合いながら、協力できる可能性を模索していきたいと思っています。

【特別対談】 高齢・障害の ネットワークづくり

*対談者

浜松十字の園	施設長	山本隆弘
施設サービス課長	鶴見俊輔	
三方原スクエア	施設長	出水厳生
支援センターわかぎ施設長	古橋 誠	

はじめに…

【出水】小羊学園創設者の山浦俊治が重度知的障害児の施設を始める時に、社会福祉法人十字の園の傘下で事業を始めさせていただきました。その後、高齢分野・障がい分野専門に事業運営を執る方向で、1987年に法人分離した経緯がありますが、同じキリスト教主義として、兄弟法人として近しき交わりを続けさせてもらっています。今回は、高齢障害者のネットワークを一緒に考える機会をいただきありがとうございます。

【古橋】今年5月に、鈴木理事長や山本施設長とお話する機会をいただき、小羊学園の障害者支援施設が抱えている課題をお伝えし共有することができました。その後、何度か連絡を取り合いながら9月には、三方原スクエア家族の会・支援センターわかぎ保護者の会の方を対象に、十字の園施設見学会を行い、十字の園の雰囲気を感じ取ってもらえたと思います。参加した

保護者や職員の反応は様々ですが、温かみのある雰囲気や職員の姿勢に良い印象を持った方が多くおられました。改めてにはなりますが、読者の皆様に十字の園について教えてください。

十字の園の現状

【山本】ドイツから来られたディアコニッセハニ・ウオルフ氏が、孤独と失望の中で暮らす高齢者に希望をもたらしたいと願い、昭和36年生活保護施設として開設し、その後、老人福祉法の制定により特別養護老人ホームの認可を受け、現在に至ります。定員30名で開始した事業も、時代の要請にこたえ増床を重ね120名定員になりました。介護保険制度改正により入居者の自立的な生活を保障する個室と少人数の家庭的な雰囲気の中で暮らす環境を整えたユニット型特養が制度化されました。浜松十字の園は4人部屋が大半を占める従来型特養ですが、5つのユニットに分け、専属の職員を配置し、「普通の暮らし」を意識した支援をしています。

【出水】そうなんですね。入居者様の日々の暮らしはどのようなのですか。

【鶴見】食事の時間や入浴日は決まっていますが、それ以外は利用者一人一人がそれぞれのペースで自由に過ごしていただいています。行事はクリスマス会、夏祭り等の年間行事があります。

す。また、毎月、地域のボランティアの方々のご協力により書道教室や民謡踊り等が行われ、床屋さんも来て下さっています。天気の良い日は散歩に出たり、外食に出掛けたり、ユニットごとで企画したイベントも行っています。面会時間は他の利用者の迷惑にならない範囲で自由に来ていただいております。利用者の体調管理は施設に併設した診療所が行っていますが、対応できない状況時には外部の医療機関へ受診しています。定期的健康診断は毎年1回行っています。

今後の連携について

【山本】生活環境の変化は年齢に関わりなく誰であっても様々な負担が生じます。その負担が少しでも小さくなるよう、今回のような施設見学会や情報交換会を重ねて、暮らしていく環境やその方自身の思い、様々な特徴を共有し、対応していく取組が大切でしょう。一つ一つの出会いを重ねて、ネットワークづくりを深め、堅くしていきたいですね。高齢者・障がい者の垣根を越えた「共生型サービス」も今後充実されるでしょうから研究しましょう。

【古橋】現場職員レベルの交流や研修も含め今後さらに連携を密にしていきたいと願っています。本日はお忙しい中ありがとうございました。

小羊学園を支えてくださる 日本基督教団 西静岡分区の教会

はじめに

小羊学園は日本基督教団「遠州教会」の信徒、山浦俊治・明子夫妻の祈りのうちに想起され、その思想と事業姿勢に共感した多くの人たちの善意に支えられて創立されました。創立からの歩みの中で日常的に、また困難の折、各教会から祈りと献身的な奉仕をいただきました。

今回は、小羊学園を支えてくださる日本基督教団西静岡分区の教会をご紹介します。

【遠州教会】



- ・所在地…浜松市中区紺屋町301-15
- ・教勢…朝礼拝出席平均76名
- ・牧師…石井佑二・石井美琴
- ・礼拝・集会
- 聖日礼拝…日曜10時30分、19時教会学校…日曜9時

【遠州栄光教会】 住吉会堂



- ・所在地…浜松市北区細江町中川7220-30
- ・教勢…96名（主日朝礼拝平均）
- ・礼拝・集会
- 主日礼拝…日曜10時、19時30分
- 教会学校…日曜9時
- 祈拝会…水曜10時30分

【遠州栄光教会】 三方原会堂



- ・祈拝会…水曜10時30分、19時30分
- ・壮年会・婦人会・クローバーの会（第三日曜礼拝後）等
- ・小羊学園との関係
- 毎月第二月曜、洗濯物ボランティア。年に一度、教会学校で訪問し、合同礼拝。小羊学園創設者、当教会員の故山浦夫妻の心と信仰を継承し続けたいと願っています。

【浜松教会】



- ・所在地…浜松市中区高町105
- ・教勢…礼拝出席57名（前年度平均）
- ・牧師…西堀俊和
- ・礼拝・集会
- 主日礼拝…毎日曜日午前10時20分
- 祈拝会…毎日曜日午前10時15分
- 教会学校…毎日曜日午前9時00分
- 入門講座…毎日曜日午前9時30分

- ・所在地…浜松市中区住吉2-35-14
- ・教勢…59名（主日朝礼拝平均）
- ・礼拝・集会
- 主日礼拝…日曜10時30分、19時30分
- 教会学校…日曜9時15分
- 祈拝会…水曜10時30分、19時30分
- ＊三方原会堂・住吉会堂 共通＊
- ・牧師…山本克三、江間紗綾香
- ・集会
- 入門講座／礼拝と教会音楽の学び等
- ・小羊学園との関係
- 小羊学園と最も近い教会として、礼拝やクリスマス会を通じた深い交わりを持っています。これからも引き続き、小羊学園の働きを覚えてお祈りさせていただきます。

【浜松元城教会】



- ・所在地…浜松市中区元城町216-14
- ・教勢…主日礼拝20-30名
- ・牧師…張田 眞
- ・礼拝・集会
- 日曜日こどもの礼拝…日曜9時10分
- 大人の聖書会…日曜9時30分
- 主日礼拝…日曜10時15分
- 聖書黙想と祈りの会…水曜日10時
- ・小羊学園との関係
- 利用者の皆さまと職員の皆さまが祝されるようにと祈って覚えていきます。
- ・小羊学園との関係
- 教会員の高齢化が著しい中、各々が適時、ボランティアに励んでいます。



【気賀教会】



月に一度、支援センターわかぎで教会学校の礼拝のために牧師が赴いています。「若樹学園」創立以来の関わりです。教会のクリスマスイブ礼拝に利用者さんが来てくださるの、顔を覚えながら教会全体でいつも祈っています。

・小羊学園との関係

19時30分
聖書の学びと祈り会…水曜日10時、主日礼拝…日曜10時10分
日曜学校…(子どもの礼拝) 日曜9時

・礼拝・集会

・牧師…大橋新 大橋茉莉耶
・教勢…教会員30名
・所在地…浜北区寺島2849

【浜北教会】



・所在地…浜松市北区細江町気賀47-24
・教勢…陪餐会員18名
(2019.10.7現在)

・牧師名…小島啓史

・礼拝・集会

教会学校…日曜9時45分
主日礼拝…日曜10時15分

・気賀教会は、日本基督教団創立前は日本メソジスト教会の教会として、そして日本基督教団創立後はその教会として、これまで120年の歴史を歩み続けています。約100年前に建てられた木道の礼拝堂では主日礼拝が、そしてその前に教会学校の礼拝が毎週日曜日の午前に守られております。

浜松市以外の西静分区教会

【中遠教会】

・所在地…磐田市見付3037-2
・牧師…兵藤辰也

【袋井教会】

・所在地…袋井市栄町2-1
・牧師…吉沼詳夫、吉沼記美代

【掛川教会】

・所在地…掛川市掛川502
・牧師…塚本洋子

【南遠教会】

・所在地…御前崎市池新田4034-1
・牧師…本宮広、本宮真理

み言葉にきく

日本基督教団 遠州教会 石井佑二牧師

ある律法の専門家が「わたしの隣人とは誰ですか」と問います。すると主イエスは「善いサマリア人」として有名な譬え話を語られます(ルカ10・30～)。

ある旅人が、追いはぎに襲われ半殺しにされています。そこに祭司、レビ人が通り掛かります。しかしそのまま通り過ぎてしまうのです。最後にあるサマリア人が通り掛かり、その傷付いた旅人を憐れに思い、治療をし、宿屋に連れて行って介抱し、費用の負担をしました。

主イエスはその譬え話をした後、問います。「誰が追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか」。律法の専門家は答えます。「その人を助けた人です」。主イエスは言われます。「行って、あなたも同じようにしなさい」。

隣人とは「誰が私の隣人になってくれるか」ということではなく、あなたが、行って、隣人になること。この一事です。隣人愛は、主イエスご自身が天から降って来られ、あなたの隣人となり、愛し、支えて下さった、そのいただいた愛の力をもって、あなたも、行って、傷付き、小さくされている人の隣人になる、その愛です。

「支え続けてくださる」ご奉仕

各教会や教会信徒の皆さまが小羊学園の社会的働きを覚え、祈りをささげてくださることにまずもって感謝いたします。日常的には入所／通所各施設が行う教会学校やクリスマス礼拝に各教会の牧師が説教奉仕いただけることに感謝です。また、三方原スクエアでは長年にわたり、西静分区婦人会や遠州教会会員が洗濯物畳みのご奉仕くださっています。あわせて定期的な献金、大規模施設整備の際の特定献金など施設運営にも大きなお支えをいただいています。



マルカートクリスマス会 張田牧師による礼拝奉仕

JKA 車輛受配報告

2019 年度「公益財団法人 JKA」様の公益事業振興補助事業の助成をいただき新しい車輛を購入させていただきました。

助成車輛 日産キャラバン（10 人乗り）
 助成金額 車輛金額 ￥2,975,891
 助成金額 ￥1,725,000
 自己資金 ￥1,250,891
 受配施設 オリーブの樹
 （生活介護・就労継続支援 B）



利用者の送迎や日々の活動に有効に使用させていただきます。助成ありがとうございます。

KOHITSUJI STAFF

リレートーク



Vol.4

松本 広恵 さん

2006 年入職 ぱびるす 児童発達支援管理者



Q 小羊学園を志した動機は？

育児が一段落して、仕事復帰する時に、元々幼稚園で働いていたこともあり子ども相手の仕事を希望したことがきっかけです。

Q この仕事の嬉しいこと、悲しいことは？

親御さんと一緒に子ども達の成長を見届けられることがやりがいです。あとは、子ども達の笑顔を見ることが出来る事が一番嬉しいです。

Q ちょこっとプライベートを教えてください！

高校時代弓道部に所属していたこともあり、最近弓道教室に通い始めました。

Q 誰にリレーしましょうか？ また一言メッセージを！

つばさ静岡たんぽぽの高木さんにつながります。お互い学びを深め、子供たちに喜ばれる仕事をしていきましょう！

第5回スクエア秋祭り

日時：11 月 9 日（土）
 11 時 30 分～15 時

ところ：三方原スクエア
 浜松市北区三方原町 2709-12

催し物：バザー販売、模擬店、喫茶、ゲーム、アトラクションなど

みどころ：楽しい催しが盛りだくさん♪ ぜひ皆さまお越しください！

問合せ：三方原スクエア ☎ 053-414-1833

社会福祉法人小羊学園

新卒採用 随時募集中

* 小羊学園では、2020 年 4 月採用の入職希望者の募集を随時しています。障がい者福祉に興味のある方、人と関わることが好きな方、私たちと一緒に働きませんか？

詳しくは、小羊学園ホームページの募集要項をご確認ください。



小羊学園を支える会

2019 年度 寄付金報告

8～9 月分 473,000 円（21 件）
 累計 1,996,300 円（96 件）

多くのお支えに感謝申し上げます

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785
 口座名義 社会福祉法人小羊学園
 ゆうちょ銀行 089 店 当座預金 0107785
 口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。

小羊学園を支える会事務局（鈴木）

小羊学園法人本部 ☎ 053-584-3337

あ と が き

将来「2019 年の秋」を振り返ると大きな出来事が続いたね！と印象に残りそうな出来事が立て続けにあった。消費税 10% へ増税・ラグビーワールドカップの日本躍進・台風 19 号による水害、日韓関係の政治的冷え込み・天皇即位礼の儀など様々。個人的には台風で水害を受けた地域の支援・復興が気かり。毎年、予測しえない何かしらの自然災害が起こる日本。もう想定外という言葉は通用しない。減災の意識を高め、早めの備えを心がけたい。

寒暖差が激しく健康管理の難しい時期です。体調など崩さぬようどうぞお身体ご自愛ください。

（F）